

1 学校課題

「自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成」

—— 基礎的な力をもとに、思考を広げ表現できるようにする取組 ——

2 研究計画

(1) 課題設定理由

新学習指導要領の全面実施に伴い、「生きる力」特に思考力・表現力を育む上で重要なものとして位置付けられる言語活動の、より充実した取組が望まれている。また、その言語活動を通して育てられる伝え合う力は学習全般の基本となるもので、子供たちにとって、実生活の中で生きてはたらく力となり、それを身に付けることは重要な課題と言える。

本校では、数年前から、コミュニケーション力を育成するために、自分の思いを言葉にして伝え合うための取組を続けてきた。昨年度は、それまでに培ってきた設定された場に応じた話し方を基に、より相手意識を持ってきちんと伝える力を身に付けるため、言語力の育成に力を入れてきた。その結果、はっきりと声に出したりみんなの前で発表したりする技能の向上が図れ、基礎的な言語力が身に付きつつある。しかし、まだ思考を広げたり表現を深めたりするまでには至っていない。

そこで、本年度は、言語力の基礎となる語彙力を育成し、さらに思考力・表現力を豊かにしていきたいと考えている。そこで、伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」と捉え、言語力の向上を目指して研究を進めていきたい。

(2) 研究の仮説

- ・語彙を豊かにするための言語環境や読書環境を整えることで、言葉に関心を持ち、自分の思いを豊かに表現することにつながるのではないかな。
- ・各教科等において記録・要約・説明・論述・発表・討論などの言語活動を取り入れ、発達段階に応じた学習過程や教材の工夫をすることで、思考をゆさぶり、思考をより広げ、自分の言葉で豊かな表現ができるのではないかな。

(3) めざす児童像

低学年・・・友達の発言をきちんと聞き、それに対する意見を分かりやすく伝え、思いや考えを広め合える。

中学年・・・相手や場を意識して互いの意見の共通点や相違点を考えながら伝え合い、思いや考えを高め合える。

高学年・・・目的や意図に応じて思いや考えを伝え合い、互いの意見を比較しながら考えを深め合える。

2 研究内容

(1) 研究授業を通しての課題への取組

国語科の研究授業では、単元の第二次である「読みとったことやお互いの考えを練り合い広め合う」段階を重点として研究を進めた。第三次での活動を見通して、単元を貫く言語活動を設定し、第三次での発表や表現活動に活用できるための読み取りや話し合いの段階を研究することで、思考力・表現力を高めていけるように取り組んだ。

(2) 出前授業（6年国語）とワークショップ

宇都宮大学教育学部附属小学校の山中勇夫先生による出前授業を実施した。（6年 国語「夏草や兵どもが夢の跡」）

ワークショップでは、①声を出す機会の確保 ②聞き方名人 ③明確な評定 ④型を示す ⑤変化のある繰り返しについて実習を行った。

(3) 「育てたい力」の具体策

「基礎的な力（技能）」と「思考力・表現力（めざす児童像の具体化）」に分けてまとめた

「育てたい力」の具体策を、低・中・高学年ごとに明らかにした。これまでの授業研究などから効果があると思われる取組を、日常的な実践につなげるようにした。

「育てたい力」のための各ブロックの具体策(平成25年度)

項目	低学年
1分間スピーチ	・みんなの前ではっきり発表できるようにする。簡単な質疑応答もできるようにする。 ・簡単に書いたり丸をついたりするカードを用いてふりかえりする。(感想や質問などが一部の子になってしまうことのないように留意して。) ・話す・聞くの学習の後の意識付けにもしていく。
ノ一原稿発表	・話したいことを文章にまとめて書く。事前に小グループで練習して自信を持って発表できるようにする。 ・話を聞く態度の育成の場とする。(他学年の様子もわかり学び合いの場)
日常生活指導	・大きな声で、あいさつ・返事ができるようにする。 ・日記や作文など、書きたいことがある時を見つけて書かせるようにする。
読書・読書環境の充実 ※司書の活用も含めて	・司書の先生や読み語りの方に本を読んでもらうことで、本のおもしろさを味わわせる。 ・国語や生活科の学習に合わせて司書の先生に必要な本を選んでもらう。
国語辞典・漢字辞典の活用	・低学年では、言葉図鑑のようなものや詩の本を活用して、語彙を増やしていく。
新聞の活用	・新聞記事の切り抜きなど、活用できる部分を見つけて利用する。
音読	・音読カードを使って家庭での練習をさせる。それだけでなく授業でも繰り返し練習をし、はっきり音読できるようにさせる。 ・詩の暗唱も取り入れる。
フラッシュカード	・カードを見て反応できるようにくり返して活用する。 ・語彙を増やし新しい言葉を習得するため継続していく。
視写	・文を写すことにより語彙を増やし、言葉の使い方を学ばせる。 ・正しい文字や作文用紙の使い方の練習や定着になるようにする。
漢字学習	・一文字用の黒板を活用し、文字の形や止めはねはらいに気をつけて1文字ずつ丁寧に練習させる。 ・くり返すことが必要で、日記などで使えるようにさせる。
家庭学習の充実	・2年生の途中から自主学習のやり方などを練習していく。家庭学習カードを使用し家庭の協力をはかる。
教室環境	・学習内容に合わせて掲示を工夫する。
ノート・ワークシートの工夫	・書く力を高めるためにノート・ワークシートを活用して書く機会を増やす。
教室環境や校内掲示・図書室の整備など	・単元に必要図書を教室に整備しておく。 ・廊下に掲示してある詩を読んだり暗唱したりする。
日々の授業での言語活動(国語以外でも主に思考力・表現力の育成に関わる活動)	・園工の作品の発表・音楽の鑑賞で発表やカード記入・生活科のカードや発表・算数のやり方の発表などさまざまな機会を設定する。 ・ブロック間での発表を取り入れる。
指導計画・学習過程、場面の工夫	・言語活動を意識して指導計画を立てる。 ・小グループ・全体と場に応じて形態を工夫する。
思考力・表現力を高めるための活動の工夫	・日常活動や行事等で、出来事や感想などを書く機会を多くする。 ・型を覚えて、書いたり話したりできるようにさせる。 ・グループでの話し合いの時間を設定する。
ノート・ワークシートなど教材の工夫	・自分の言葉で書けるようなワークシートを工夫する。
思考力・表現力を看取る評価の在り方(規準・場面・方法・補助簿など)	・書いたり発表したりする場面で看取る。評価したことを子どもに返す。低学年では、基礎的な力を付けることが重点になるので、それ以上のことを多くねらいすぎないようにしている。
実践的に活用する活動	・朝の会・帰りの会など、毎日の活動に取り入れる。 ・ノ一原稿発表・学活・校外での学習など機会を捉えて行う。

紙面の都合上、低学年のみ掲載。「育てたい力」やその具体策(中・高学年)は、「けやきネット」の吉田西小学校ホームページを参照。

(4) 学校課題の評価

「育てたい力」について、低・中・高学年ごとの「伝え合う力評定尺度」を作成して、7月と12月に児童一人一人の到達度と学級全体の状況の評価した。そして、個々の課題を把握して支援に生かした。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・「育てたい力」の具体策を明らかにして日常的に取り組んだことで、さまざまな機会を捉えて指導をしたり継続した指導を心掛けたりすることができた。さらに、思考力・表現力を意識した授業の展開につなげることができた。
- ・国語科の指導では、第三次での活動につながるような第二次の展開を工夫して指導することによって、他の教科等での思考・表現にも生かすことができた。
- ・スピーチや少人数での話し合いを意図的に取り入れ、型を示したり、観点を示してくり返したりすることで、伝え合うための話し方・聞き方の基礎的な力を高めることができた。

(2) 課題

- ・語彙を豊かにするための日常的・継続的な言語活動の充実を図り、言葉への関心を高める言語環境作りの工夫が必要である。
- ・思考力・表現力の育成のためのめざす児童像をより具体的に設定し、低・中・高学年ごとの指導の重点を明確にする必要がある。
- ・国語科では、マトリックス型年間計画を作成し、学年の系統性を確認したり重点化を図ったりしていく必要がある。
- ・国語科での単元を貫く言語活動を位置づけた単元構想や、思考力・表現力を高めるための全教育活動における言語活動の一層の充実を図る。
- ・話し合い活動では、少人数だけでなく、学級全体でも主体的に取り組める力を高めていかなければならない。